

# 2021年度キャリアデザイン学部

キャリア体験特別入試（自己推薦）・グローバル体験公募推薦入試

## 小論文 問題

次の文章は、哲学者の鷲田清一さんが、中学生に向けて書いた『賢くある』という「こと」という文章の一部です。よく読んで、以下の二つの間に答えなさい。

近代社会は、一八世紀のフランス革命から始まったと言われているが、簡単に言うところにいる皆さん〔略〕すべてが同じ「一」である、ということなのだ。あらゆる人は「一」であって、それ以上でもそれ以下でもない。一番わかりやすい例は、投票の構造だ。総理大臣も一票だしフリーターも一票。人はすべて同じだ、という捉え方をする。

しかし、近代社会が成立するまでは、全員が「一」ではない、現代からすればいわば不平等な社会だった。身分制度があったので、生まれたとき既に人生の軌道が描かれていた。どの階層に生まれるかによって職業はほぼ自動的に決まったし、家庭をつくるにしても、相手は自分と同じ階層で周辺の地域に住んでいる人に限られた。つまり自分の生涯のあたりはおおよそ見えていたのだ。自分で自由に職業やパートナーを選ぶなど考えられない世の中だったから、わざわざ自分の存在する理由を問う必要もなかった。その社会を、その共同体を、その家族を維持するためには、その人がいなければならぬ。あらかじめ役割が与えられて生まれてきたから、自らの役割を果たすことが人生の目的だったのだ。

ところが、近代社会は「生まれ」、つまり階層、地域、言葉、性別、といった本人が選ぼうのない条件は全て無視しようという考えを基本に成り立っている。生まれは関係なく、みんな同じスタートラインに立ち、同じ条件で勉強を始め、平等に扱われる。その代わりあとは自分で選びなさい、と放り出される社会だ。そうするとどうなるか。今ある自分は自らが選択した結果なのだからすべて自分の責任だ、ということになる。

近代社会は理念として全員が同じ重さだという思想に基づいている。ほんとうに全員が一票を持つことができたのは二〇世紀に入ってからであるし、いまだに差別はなくなっていないが、この理念を守り続けようとしている。

確かにたいせつな考え方だが、だれもが、自分はどういう存在でありそれを意味のあるものとして肯定できるか、という問いに向き合わざるをえない。近代社会は、ものすごく重いことを一人ひとりに要求しているのだ。

そんな（一）**大きい責任**を課せられている今の時代であるにもかかわらず、若い人に限らず、すべての世代が、どんな無力になっても私は感じている。大げさな言い方だと思いかもしれないが、では、この中に、お産のときに赤ちゃんを取り上げることができる人はいるだろうか。おそらく皆無だろう。へその緒はどの辺りで切るか、とか、産声を上げさせるにはどうすればいいかとか、まったく知らないはずだ。昔は、こういった事は女性であれば全部できたのだ。〔略〕

出産、調理、排泄物の処理、治療、看護、教育、子育て、交渉など、生きるうえで欠かせない事柄を、私たちは知らないうちにすべて、他人に任せるようになった。少しでも安心で安全に暮らせるように、とそれぞれの「プロ」を育ててきたのだ。普段の生活のことは行政やサービス会社に任せておけば安心、安全だし、病気になるればしっかりと治療を受けられる。子どもは学校で勉強するようになったし、めんどうな事も弁護士に頼めば損はない。排泄物はペダルを踏むだけできれいになるし、介護が必要なら電話をすればいい。

生活のあらゆる面でそれぞれのプロがいるから、なんの不安もないし健康でいられる。寿命が延びたことからうかがえるように、プロを育てたことは社会にとって間違いなくプラスになった。ただ、プラスは必ずマイナスを含んでいるもので、プラスの分何をつたかという、われわれ自身の能力だ。一人では何もできない無能、*disable*の状態になってしまった。

そんな私たちが今の社会でできること、それはクレームをつけることだけ。行政にも会社にも、少しでも不満があれば文句を言う。これだけは自信を持ってできる。なぜか？ お金を払っている、義務を果たしている、と主張できるからだ。払った金額に見合うサービスを受けるべきで、かなわなければ文句を言えればいい。しかもそれを当然のように言う。皆さんも、授業がつまらなかつたり成績が下がったときに、ちゃんと授業料を払っているのにこの頃の先生はサービスが低下している、などと文句を言わなければいけないのだが……。

近代社会は、全員が責任を持った「一」である市民社会をつくらうとしていたはずなのに、結局私たちは「市民」ではなく「顧客」になってしまった。市民とは、自分たちの大事な問題は自分で判断し自ら担う主体を意味する。私たちは、自分たちの安心と安全のためにプロを育て、「委託」するという道を開拓してきた。しかしその制度の中で暮らすうちに、自分が持つ技や能力を磨くことを忘れてしまった。自分で物事を決めて担うことができる市民ではなくなり、**ただのサービスの顧客に成り下がったのだ。**

第一問 筆者のいう「大きな責任」とはなにか。近代社会以降、その責任がわれわれに課されている理由がわかるように、二百文字以内で説明しなさい。（縦書き。句読点も字数に含む。）

第二問 「サービスの顧客に成り下がった」一人とされるあなた自身が、これからの社会で果たせる具体的な役割と責任はなんですか。そう考えた理由も合わせて、五百文字以内で述べなさい。（縦書き。句読点文字数に含む。）